

## 11月校長講話「心を見がく」

皆さんは、この石でつくられた像を見たことがありますか？ 校長室の前の廊下に飾られていて前から気になっていました。ほうきを持った、お坊さんです。おそらく、



手良のどこかにあるのだろうと思って、総合的な学習の時間で、手良地区の文化財を追究している4年生に尋ねてみましたが、はっきりしたことが分からず、先生も心当たりを探して回りましたが、見つかりませんでした。

このほうきを持ったお坊さんの像は、全国各地にあります。これは、伊那市の

常円寺にある像です。今日は、このお坊さんの話をします。

このお坊さんの名前は「周羅槃特(しゅりはんどく)」といいいます。昔々、2500年ほど前インドという国にいたお釈迦様の弟子でした。

このお坊さんは、物覚えが悪く、朝聞いたことでも夜になるともう忘れてしまうというお坊さんです。自分の名前も覚えられなくて、背中に自分の名前を書いてもらい、人から名前を聞かれると背中を見せて教えているというのです。ですから、他の人からはバカにされていました。周羅槃特はそういう自分が情けなくなって、ある時、お釈迦様の所へ行って「私は、もう坊さんをやめたいです」と相談しました。

するとお釈迦様は「何も心配することはいらない。」と言って、彼に1本の竹ぼうきと、塵を払い垢を除かん」という言葉を授けました。難しい言葉ですが、簡単に言えば「もっときれいにしましょう」ということです。

周羅槃特は、それから何年も、その言葉だけを繰り返しながらおそうじをし続けました。ある日、いつものように庭そうじをしていると、お釈迦様が来て、「ずいぶんきれいになったね。だけど1ヶ所だけ汚い所があるよ。」と声をかけてきたのです。そこで、周羅槃特は不思議に思い、「お釈迦様、どこが汚いのでしょうか？」と尋ねましたが、教えてくれませんでした。「はて、どこなんだろう？」と思いながら、それからもずーっと「もっときれいにしよう。」と言いながらおそうじを続けたのです。

数年たったある日、周羅槃特は、はっと気がついたのです。「そうか、汚れていたの

は、場所のことではなく『自分の心の汚れ』だったのか」と気がついたのです。

その時、お釈迦様は周羅槃特の後ろに立っていて「これで全部きれいになりましたね。」と言ってくれたのです。

心の中の汚れとは「そうじがイヤだとか、さぼりたい、もっと楽をしたい、おしゃべりしながらやりたい」とか、「友だちを馬鹿にしたり、威張りたい」「算数は嫌いだからやりたくない」などという心を捨てなさいということに気がついたのです。

お釈迦様の教えがわかった周羅槃特は、ますますおそうじに精を出し、人々から逆に尊敬される立派なお坊さんになったのです。そして、やがて年をとり多くの人々から惜しまれながら亡くなりました。

今日は、おそうじにちなんだ周羅槃特というお坊さんのお話をしました。おそうじを一生懸命に、静かに行うことが、もちろんその場所をきれいにするのですが、実はそれだけではなく「自分の心をきれいにする」ということだったんです。

みなさんのそうじはどうでしょうか。児童数が少なくなって、一人一人のそうじする範囲がとても広がっていますが、時間いっぱい、そしてプラスアルファの「見つけ掃除」をするなど、みなさんよく掃除をしていますね。

この周羅槃特のお話のように、おそうじを通じて床が光るだけでなく、皆さんの心も光っているように思います。そして、そういう心が実は将来、皆さんが大きくなる時にどうしても大事になってくることなんです。

これからもみなさんが、静かに一生懸命にそうじをするを通して自分の心を磨いてほしいと思います。

さて、今日から一ヶ月間、11月はなかよし月間です。月間中は、「なかよしの花」「なかよし児童会まつり」などの活動を通して、普段の自分の姿を振り返ったり、友だちとのかかわり方を学んだりして、手良小学校の友だちがもっと仲良くなってほしいと思います。

また、11月18日から29日は、縦割り清掃があります。そうじの姿から友だちのいいところを見つけたり、お互いに協力しあったりしていけたらいいと思います。

以上で終わります。